

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 001	提案機関名 川崎市経済労働局農業技術支援センター
要望問題名 ナシ萎縮病の予防・治療技術の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本市の主力品種である幸水において、萎縮病によると思われる枝の枯損が年々広く見受けられるようになってきた。現時点では、有効な予防・治療技術が確立されておらず、被害樹の改植により対応している状況である。今後、萎縮病の被害が広がると、幸水の生産に影響を及ぼす恐れがある。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>ナシ萎縮病に関しましては、千葉県において多くの試験が行われています。これまでに病原の一部が木材腐朽菌である <i>Fomitiporia torreyae</i>(和名：チャアナタケモドキ)、<i>Fomitiporia punctata</i>(和名未決定)であると解明され、罹病樹の主幹基部や放置された枯死枝、切り株上に形成された子実体(いわゆるキノコで、柄や傘を持たず、樹皮にべったり張り付くような形状)から飛散する胞子によって伝染すると考えられています。</p> <p>防除対策については現在研究が進められているところですが、病原が木材腐朽菌であるため感染後の治療は難しく、まずは伝染源である子実体の除去が有効であるとされています。果樹園周辺の樹木も含め、子実体は見つけ次第除去するよう努めてください。また、病原菌は枝の分岐部分、剪定跡などの、枯死した組織がある部分から侵入していることが多いようですので、大きな切り口を作らないこと、剪定後の切り口の保護にも努めてください。</p> <p>今後新しい知見、防除技術が確認され次第、随時情報提供致します。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			